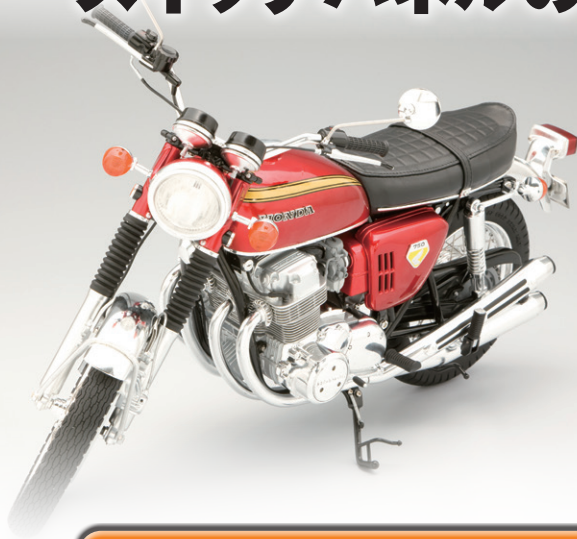


今号の作業

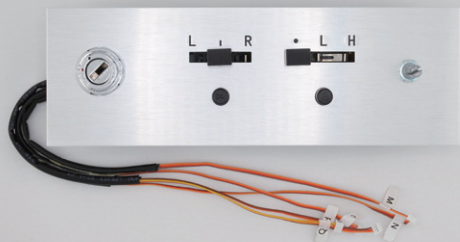
スイッチパネルの準備をする



今号では「スイッチパネル」を提供する。このパーツはディスプレイベースの前面に取り付けられ、モデルの各種ギミック操作を行うものだ。スイッチのデザインと配置は実車を模した仕様になっており、16号で提供したイグニッションキーによって作動する仕組みだ。

今号のパーツ

①



※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様が異なる場合があります。

①スイッチパネル×1

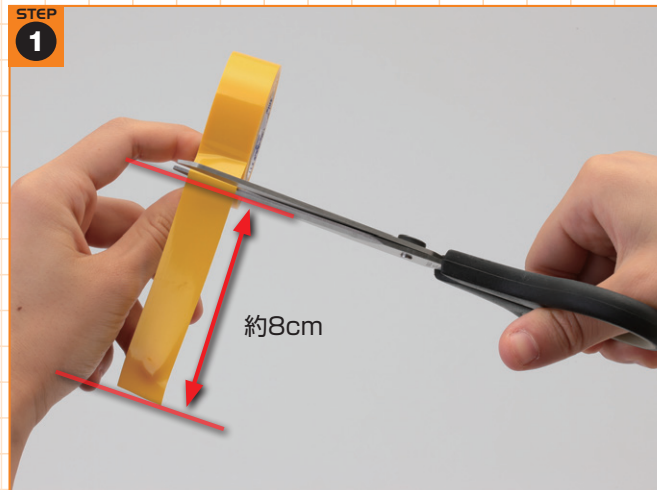
※①スイッチパネルの各ケーブルを覆っている黒いチューブは、ベース内部に露出する部分を保護するためのものです。個体によってはチューブの位置がコネクタ側寄りにある場合もありますが、作業上問題ありませんのでそのままご使用下さい。位置をずらしても問題ありませんが、その際はケーブルを強く引っ張らないようご注意ください(断線避けるため)。

使用する道具

・ハサミ

用意するもの

・イグニッションキー
(16号で組み立てたもの)
・ビニールテープ(ホームセンターで入手可)
・ビニール袋(パーツが入っていた袋で可)



まず、ビニールテープを約8cmの長さにカットする。ビニールテープはホームセンターなどで入手可能だ。



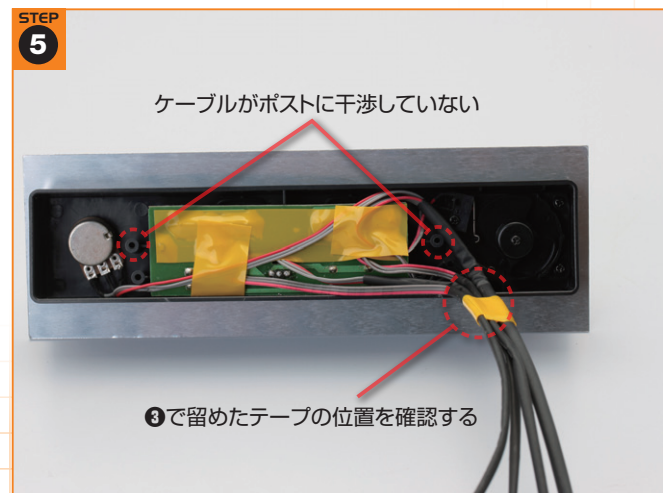
①スイッチパネルを裏返し、写真のように基板の裏面にビニールテープを貼り付ける。これは、各ケーブルとハンダ付けされた部分の接触トラブルを防ぐためだ。



スイッチパネル裏側のケーブルを横並びになるようにまとめ、写真の位置にビニールテープを軽く巻き付けておく(黒いチューブ上ではなく、ケーブルに直接巻き付けてもいい)。その際、各ケーブルを強く引っ張らないように注意し、なおかつ写真に示したポスト部分を避けるように「少したるませた状態」でケーブルを取り回しておくこと。



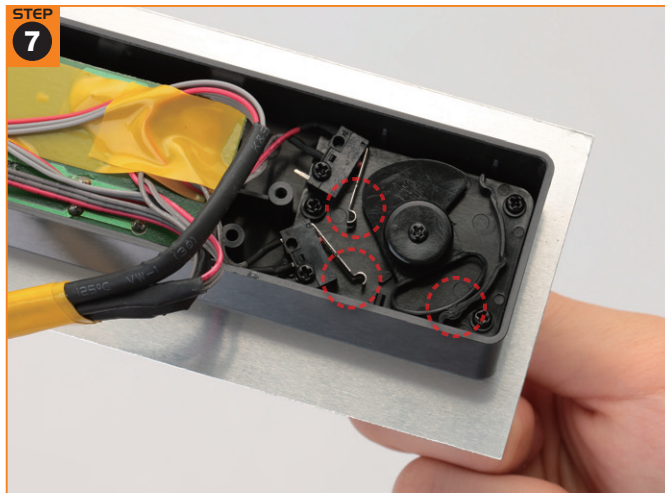
短く切ったビニールテープを写真の位置に貼り、基板の左側から伸びているケーブルを軽く留めておく(強く貼り付けると基板を痛めるので注意)。



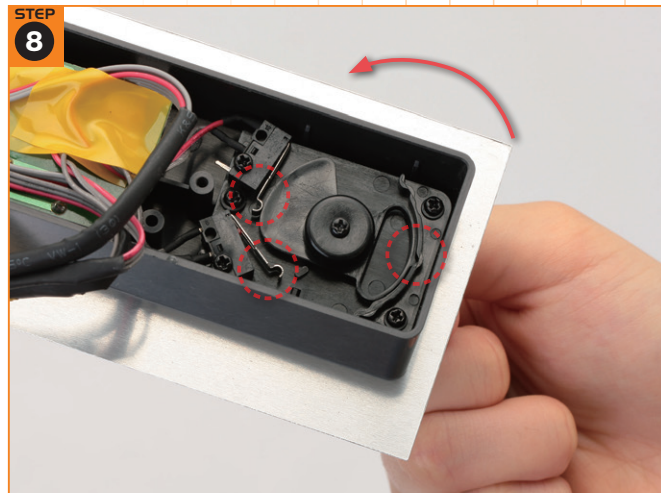
基板右側のケーブルもビニールテープで軽く留め、写真に示したポスト部分にケーブルが干渉しないようにする。写真のような状態になっていればOKだ。



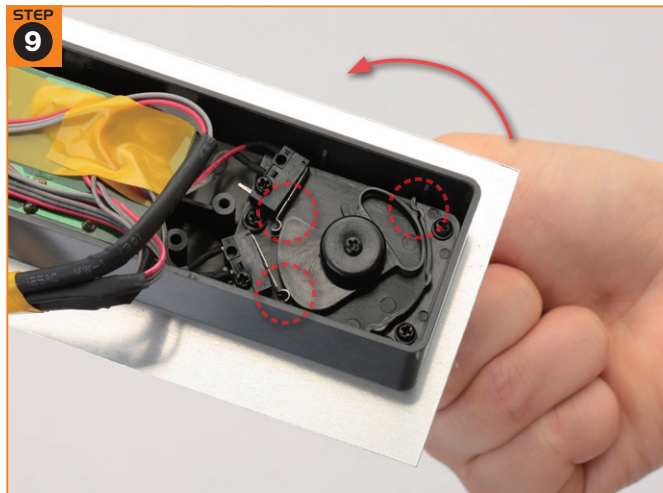
16号で組み立てたイグニッションキーを、メインスイッチとなるキーシリンダーに差し込む。このとき、キーの向きがシリンダーの「OFF」の位置になるようセットされているが、位置がずれていた場合はキーを回して位置を合わせる。



イグニッションキーをシリンダーに差し込んだら、キーが抜け落ちないように保持したままスイッチパネルを裏返し、右端の部分を確認する。この状態が“電源スイッチOFF”だ。



次にイグニッションキーを写真に示した方向にゆっくりと、カチッという感触があるまで回す。この状態が“電源スイッチON”で、モデルに組み込まれた各種ギミックの操作が可能になる。



イグニッションキーをさらに回すと、もう一度カチッという感触がある。この状態が“パーキング”で、往時の実車を駐車するときの状態を再現できる。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。スイッチパネル表面の各種スイッチと、裏側の各ケーブルについては、次回の作業時に説明するので、現時点では不用意に操作したりせず、ビニール袋に入れて大切に保管しよう。また、イグニッションキーは必ず抜き取って保管しておこう。